

県中国研だより

令和7年度

＜発行＞
鹿児島県中学校
国語教育研究会
集会広報委員会

編集責任者
新田由美子

令和七年度 鹿児島県中学校国語教育研究会

夏季研修会について

期日 令和七年八月十八日(月)

会場 ホテル自治会館 四〇一号室

内容 「講演」「人間として生きぬくための国語力を育む

～生成AI時代の国語科教育の羅針盤～」
小崎 誠二氏(奈良教育大学教育学研究科教授)

案内は各中学校に配布いたします。当日は懇親会も計画しております。
多くの先生のご参加をお待ちしております。

第五十四回鹿児島県中学校 国語教育研究大会鹿児島大会

今年度の県大会は、九月に鹿児島市で開催されます。研究テーマ
『個別最適な学び』と『協働的な学び』の『一体的な充実を通して』
と『力の』を高める国語科教育の創造』をもとにした授業づくり挑戦
します。みなさまのご参加をお待ちしております。

期日 令和七年九月二十六日(金)

会場 鹿児島市立星峯中学校

内容 「研究授業・授業研究」

・授業者 眞邊 剛 教諭(星峯中学校)

・授業者 佐多 雄児 教諭(星峯中学校)

「講演」 中山 祐次郎氏 (外科医・作家)

詳細は、七月頃に各中学校に配布する案内をご覧ください。

羅針盤

我らと共に学ばん

県中国研会長(鹿児島市立長田中学校校長)

奥山 茂樹

「キュビナ」の創設者、東明館中高等学校の校長神野元基さんによると、Society 5.0の世界はあと五、六年後に迫っているという。また、デジタル化や人口減少、グローバル化など急激な社会の変化とともに、経済格差や危うい国際情勢など、様々な課題は複雑化、多様化してきており、正解のない予測困難な社会が訪れつつあると言える。いわゆる「VUCA」の時代の到来である。

これらの未来社会を見据え、私たち中学校教育に携わる者は、子供たちの一つの姿を見据えて、教育にあたる必要がある。高校等への入学時だろうか。いや、そんな短期的なものでは決まてないはずである。子供たちが社会を担う二十代、三十代の頃を想定し、各教科や総合、学校行事などを展開すべきであろう。さて、経済が右肩上がりの昭

和の時代であれば、先生から言われたことを正確に、早くでることが求められていた。他と異なることは指導の対象になることもあった。しかし、正解のない予測困難な世界では、社会人として求められる資質能力も変化しつつある。これからは他と違うことに価値があると言える。自分が何を考え、何を大事にし、どうしていきたいのか。キーワードのひとつは「自律」。思うに、これからの学校では、子供たちに最上位目標を考えさせ、対話を通して合意形成を図る経験を積み重ねることが大切ではないか。意見を述べたら学校が変わる。そんな経験を中学校時代に味わわせたいものだ。改めて学習指導要領の国語科の目標に立ち戻ると、未来社会における我々国語科教師に課せられた任は重い。だが、同時にやりがいも大きいのだ。我らと共に学ばん。そんな思いである。